

令和元年度第1回 総合教育会議 議事録

会議名称	令和元年度第1回 総合教育会議
開催日時	令和元年8月6日(火) 10時00分～10時50分
会 場	芦屋町 本庁舎3階 課長会議室
委員の出欠	<p>【委員】</p> <p>町 長 波多野 茂丸 〔出席〕</p> <p>教 育 長 三 柵 賢二 〔出席〕</p> <p>教育委員 長戸 隆弘 〔出席〕</p> <p>教育委員 井上 弘行 〔出席〕</p> <p>教育委員 本田 幸代 〔出席〕</p> <p>教育委員 吉崎 強志 〔出席〕</p> <p>【委員以外の出席者】(オブザーバー)</p> <p>副 町 長 中西 新吾</p> <p>学校教育課長 新開 晴浩</p> <p>生涯学習課長 本石 美香</p> <p>【事務局】</p> <p>企画政策課長 池上 亮吉</p> <p>企画政策課 企画係長 本郷 宣昭</p> <p>企画政策課 企画係 甲斐 智志</p>
議 題	<p>1 芦屋町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価報告書について</p> <p>2 その他</p>
合意・決定事項	<p>○評価報告書について了承される。</p> <p>○次回の会議は2月開催。次年度の取り組みについて説明予定。</p> <p>緊急の事案があれば、その都度開催する。</p>
傍聴者	なし

令和元年度第1回総合教育会議 議事録

1 町長あいさつ

はじめに、教育長及び教育委員のみなさまには、芦屋町の教育行政の推進にあたり、ご尽力をいただき、改めまして感謝を申し上げます。

先の選挙において、5月1日付けで4期目となる町政運営を担わせていただくことになった。私に課せられた責任の重大さを痛感しつつ、町民の皆さんの付託に応えるべく、「元気な芦屋まちづくり」にまい進していく決意を新たにしているところである。

また、4期目となる町長選への立候補にあたり、「元気な芦屋まちづくり戦略」として8項目を、マニフェストとして掲げさせていただいた。

教育に関しては、本戦略の2点目、まちの教育力・子育ての充実を推進するための「教育力・子育てしやすいさアップ戦略」として、小・中学校の夏休み短縮による学習時間の確保やタブレット端末導入によるICT教育の推進。学校の施設整備として、中学校トイレ改修事業、小学校プール改修事業などを掲げさせていただいている。

行政の役目は、教育しやすい環境づくりに尽きると考えている。委員の皆様は、町民の皆様が思うことを直接聞くことができる立場にあり、各地域・各団体の教育現場で培ったことを意見していただく場が総合教育会議であると考えている。

行政においても、「前例に従っていればよい」という時代ではない。時代に応じたニーズがあり、若年層の人達が、大人とは全く違うことを考えていることを様々な場面で実感している。ニーズに応えるには、中央からではなく、地方から良くしていかなければならない。そのためにも総合教育会議は大切な会議であると考えている。10年、20年、30年先の芦屋町の教育のために、十分議論していただきたい。

2 新委員の紹介

※吉崎委員よりあいさつ。

6月から教育委員として活動させていただいている。委員の中で最も子育て世代に近い人間として、役割を全うできるように努力していきたい。

3 議 題

(1) 芦屋町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価報告書について

【資料1】点検及び評価報告書

○主に、学校教育に関する事項は三桝教育長、社会教育に関する事項は本石生涯学習課長より説明。

【資料2】生田教授の意見書

○主に、学校教育に関する事項は三桝教育長、社会教育に関する事項は本石生涯学習課長より説明。

○意見書では、報告書が「点検及び評価」に必要な要件を備えていることを評価したうえ

で、さらに効果的な「点検及び評価」となるように、2点提案がなされている。

- ①「目指すゴールの明確化」…めざす子ども像、あるいは、芦屋町がどうあってほしいのか、めざす社会像についても芦屋町全体で共有する、ゴールを町全体で常に共有していくことが必要。
- ②「取り組みの成果や評価指標の分類」…成果として、「取り組み自体が改善されること」「取り組みの結果として得られること」が混在している。両者を分かりやすく分類するとよい。

【意見等】

- 以前参加した研修で、文科省の講師から、「教育現場におけるICT環境は、文房具と同様に必要不可欠であるが、現状は、地域間格差が大きく、危機的な状況」という話があった。芦屋町は今年度タブレットも導入され、県内において最もICT環境が整っていると考えている。学校や先生によって活用方法に差はあるだろうし、すぐに効果が得るものではないかもしれないが、魅力的な授業作りに取り組んでいるという努力は伝わっている。先生方には、とても良いICT環境が整った職場であることに誇りを持って芦屋町の子ども達のために頑張ってもらいたい。
- 生田教授の意見書における提案の一つに、「めざすゴールの明確化。この取り組みの成果として、どのような子どもが育つか、めざす子どもの姿を確認したい。」とあるが、どのような意味合いなのか。
⇒報告書には、芦屋町がめざす子ども像は特に記載していないが、「芦屋町さわやかプロジェクト」等には、めざす子ども像を掲げているので、それらを記載してより分かりやすくするとよいのではないか、という意見だと捉えている。
- めざす子ども像の実現のためには、学校だけではなく、保護者の教育、意識改革も大切ではないだろうか。子どもが芦屋町のことをよく知っていても、意外に大人は知らなかったりすることも多い。その辺りは社会教育の取り組みにかかっているところだと思うので、これからも様々な手段で取り組んで欲しい。

(2) その他

[事務局]

- 次回の会議は2月開催。次年度の取り組みについて説明予定。緊急の事案があれば、その都度開催する。